



## 酸性雨でどんな被害が出るの

### 工場のけむりや車の排気ガスで酸性雨が

雨は、降ってくる時に、空気中の二酸化炭素をとかしこんでいるので、もともと弱い酸性になっています。しかし、最近では、世界各地で、酸性の強い雨が降ることが多くなってきました。

工場のけむりや車の排気ガスなどから、硫酸化物や硝酸化物などが出されて空気中に混じり、広がっていく間に、太陽の光や空気中の酸素や水分のはたらきで、硫酸や硝酸のつぶなどに変わります。硫酸や硝酸は、強い酸性の酸です。

雨が降るときに、雨つぶが、この硫酸や硝酸のつぶをとかしこんで、強い酸性の雨になります。この雨を、酸性雨といいます。

### 酸性雨の被害

酸性雨によって、植物に大きな被害が出ています。中央ヨーロッパの森林地帯で、木がかれるなどの被害が出ています。

ヨーロッパの湖では、酸性雨が降ったり、流れこんだりして湖が酸性になり、魚などが死んでしまう湖が多くなっています。

やはり、ヨーロッパで、大理石や石灰岩でできた彫刻や建物が、ぼろぼろになってしまうという被害も出ています。（監修・村山 貢司）

